

キタダケソウ、ミヤマハナシノブの

花見山行記

2011.7/3～4

今年の梅雨は降雨量こそ少ないが（場所により差があるが）梅雨らしい梅雨空が続いていてこの花見登山も前日、いや出掛けまで決心がつかない状態でしたが、7/3は雨はなさそうなので決行する。お陰で準備不足。

7/3（日）自宅 2:00～（豊科IC、白根IC経由）4:20 芦安 P（朝食）5:10～バス～6:11 広河原 6:15～8:20 二俣 8:35～9:10（軽アイゼン着用）9:20～10:55 八本歯のコル 11:15～北岳山荘へのトラバース道でユックリ キタダケソウなどの花見～12:40 分岐 12:45～13:20 北岳山荘（泊）7900円。約30名。

7/4（月）朝から強風 6:00に出発して稜線を少し進むが強風で小屋へ戻る。7:50再出発～8:50北岳山頂～9:25肩の小屋 9:35～11:10二俣 11:20～（崩壊地付近のミヤマハナシノブの花の前で花見昼食30分）～13:20 広河原山荘 13:30～環境省野呂川広河原インフォメーションセンター見学～14:00～バス～15:02 山ノ神～芦安白峰会館で入浴～南アルプス芦安山岳館見学 16:55～長坂IC経由～19:05 自宅 総走行 267KM。

0:30頃に目が覚めてしまう。起きても天気予報がハッキリせず思案する。最近では決断力も衰えた。永年の夢である、世界でも北岳のみに咲くキタダケソウを見るには体力的にも今年が最後のチャンス6/26～27の連休は天候で延期。今日しか無い！決行を決断する。車を運転していても睡眠不足はハッキリ感じる。葦崎IC経由が理想だが、少し遠回りでも楽そうな白根IC経由とする。芦安の駐車場へ早く着いたので朝食。6割位の混みようだ。乗り合いタクシー（9人乗り）の客引きが「バスと同じ1000円」と言ってくる。これではバスは益々乗客が減ってしまう。案の定タクシーは3台。バスは乗客4名のみ。夜叉神峠の駐車場（100台）は6割位の駐車だった。二俣に向かう途中で早くも今回の目的の一つの「ミヤマハナシノブ」を登山道で発見！この花はここ大樺沢と清水岳（しょうず岳と読む。白馬～祖母谷温泉間。）の2箇所のみで見られるもの。2003年7/21～23群馬県のYさんご夫婦やTさんと4名で白馬岳～清水尾根～祖母谷温泉コースを歩いた時に登山道から数M奥で咲いている数株を見て以来で感激！雪渓脇で咲いていると思っていたので「こんな下で？」の感じでした。

7時5分、早くも最初のみヤマハナシノブ・二俣のは小さい

雪渓の急な登り



二俣付近で探すと何株か咲いているのがあるが丈が低いものばかり。二俣付近では下山者が多くなった。さてここからどのコースをとるか？気持ち的には八本歯のコル目指して雪渓を登りたいが「軽アイゼン」しか持ってこなかった。今朝、小屋の予約時に聞いたら「アイゼン、ピッケル必要」との返事だった。雪質を見た限りでは軽アイゼンでも歩けそうだが、いかんせん斜度がきつい。45度とネットの検索では書いてあった。雪渓を登る事に決める。1/3位は夏道を歩く。理由は雪渓が不安定な感じなので。(割れ目や端が薄い感じなので)谷が狭まった所で女性グループがアイゼンを装着していた。全員ヘルメット着用している。もしかして北岳バットレスの岩登り？かなと思う。私も軽アイゼン装着して後を追う。先行者が何人かいても、アイゼンなら安定するので、ステップが出来ない。こちらはキックステップで蹴り込まないとずり落ちてしまう。後ろを振り返ればかなり急な斜度なので、滑落すれば、ピッケルが無い限り停まらないだろう。慎重にしかし怖がらず登る。下山者もいるが皆ヘッピー腰で慎重に下っている。体力は落ちたが登りはまだそれほど苦にならないので、寝不足だがそんなに苦にならずに夏道に。先行者のグループは名古屋の山岳会の「女子会」との事。ベテランの2名のL、S Lらしき人以外は若手であった。シッカリした山岳会と感じた。今日は肩の小屋に泊まるとの事。私自身、携帯電話が広河原からは圏外になると聞いたので、バスが芦安を出る前に北岳山荘に予約の電話をしてしまった。(当初予定は北岳山頂経由だったので日程的に)左俣雪渓コースなので、北岳山荘泊では早く到着してしまうし、明日の天気が悪そうなので肩の小屋へ泊まったほうが明日の日程が楽だ。明日天気が良ければ小太郎山の往復も考えているので、日程的にも楽になる。(キタダケソウを見た後時間的にまだ13:00前だったので変更しようと携帯かけたが通じなかった。)肩の小屋に泊まっていれば翌日の「強風」も問題がなかったのにと反省している。

それは兎も角としてそこからは私が先に。梯子の連続となる。バットレスが見事。眼下には登った雪渓が。その先には何年か前に歩いた早川尾根が見える。八本歯のコルからは間ノ岳、農鳥岳方面や池山尾根コースが見える。北岳山荘へのトラバース道がお目当てのキタダケソウの群生地である。時間はタップリあるのでユックリお花畑を散策する。

キタダケソウ



キタダケソウ群生です



ハクサンイチゲの群生に混じってキタダケソウが予想以上に多く咲いている。草丈が10~20CMと低いのと色が同じなので分りにくいが見れば見分けは一目瞭然である。葉もまったく違ふし。北海道のアポイ岳に咲く「ヒダカソウ」は姉妹種と言うだけあって良く似ている。

此処は石灰岩地のような。もう 2 度と見られないと思うと写真を沢山撮りながら眺める。これだけあれば絶滅はしないと思う。キタダケソウだけに目がいくが、あたりを良く見渡すとお花畑も大きいし、花の種類も多い。チョウノスケソウ、ヨツバシオガマ、チシマアマナ、ミヤマオダマキ、イワベンケイなども見られた。日本有数のお花畑と言えそう。

ミヤマキンバイ



チョウノスケソウ



北岳山荘到着・13:21



早々と小屋に到着。缶ビール 2 本買うが美味くないし、体が温かくない。軽い高山病かも。百名山やっている時に、この山荘は 2 泊した。其の時、高山病になり、夏山診療所のお世話になった事を思い出した。昨夜は定員 250 名で 170 名宿泊。今日は少ない。私の部屋には千葉県浦安市からのご夫婦のみ。仲の良い、山好きでアチコチ縦走されているご夫婦でした。

7/4 5 時朝食。外はかなりの強風。6 時に出発してみるが強風で小屋へ引き返す。静岡県からのツアー団体 10 名ほどは出て行った。様子見で千葉のご夫婦に又話し相手になってもらう。風はなかなか弱くならない。7:50 に待ちきれず出発。アイゼンを持参していれば又雪渓を下った。其のほうトラバース道含めて風の影響は少ない筈だ。西風で飛ばされそうになりながら北岳に向かう。視界も悪い。ただガスで雨降りでは無いし気温が寒くないのが不思議でありがたかった。風速 20M とすれば体感温度は 20 度 C 低くなる筈だが、手袋しなくてもそれほど寒

くはない。何度か飛ばされそうになったが北岳山頂に到着する。私の登山の歴史でもこの強風下の歩行は特筆ものと思う。誰にも会わない。展望もないし、カメラはビニール袋に包んでザックの中。休憩無しで肩の小屋へ。すぐ静岡のツアー団体に追いつく。風除けのためにトラバース道経由で迂回したようだ。肩の小屋を過ぎたら風の影響は少なくなった。昨日、肩の小屋に泊まっていれば下山は風の影響も少なかったと思うと失敗した。キバナシャクナゲの群生地は花の最盛期。鹿の歩いた跡が沢山ある。マルバタケブキとコバイケイソウの毒草がやたらに多い。他は鹿の食害で全滅寸前状態である。南アルプスの鹿対策は急務だ。二俣到着。2名が雪溪の夏道を登って行く。夫婦者が雪溪を下ってくる。旦那の方がコルの手前で風で飛ばされて、転落し大変だったとの事。私はミヤマハナシノブを探す。見つかるがここのは皆草丈が低い。雪解け直後でこれから大きくなるのか？花は咲いているが。良く似た花が多い。葉が違うので良く見れば判別可能だ。少し下り崩壊地の最初のパイプ製の橋を渡った時にミヤマハナシノブを発見する。今回では一番大きい固体が数株、花も盛期！大感激！それにしても往路で何故気がつかなかったのか？腹も空いているし、ここで眺めながら昼食とする。

下山時に立派なミヤマハナシノブ



花見ながら昼食



まだ風が吹いているので弱まった時を待っては写真を沢山撮る。周りを良く見るとかなり散在している。直径3M位の範囲で。昨日この少し下で見た大きな個体は登山道上にある為に登山者に踏まれていた。どうも推測だが、この2箇所の固体は二俣の花の種が大雨で流されて根付いたのでは。広河原山荘は広河原のバス停などからは少し離れていて落ち着いた山荘だ。下山者が一人休んだり、体を拭いたりしている。バスまで30分以上あるので私も腰を下ろす。今回の山行は北岳山頂を初め大展望には恵まれなかったが、雨にはあわず、目的の花2種をしっかりと眺めて、撮影できた。小太郎山には寄れなかったが、満足感十分だ。インフォメーションセンターに寄る。バス運行時間中は会館している。トイレや休憩には綺麗でお薦めです。それにしても国の建物は立派過ぎる。芦安バス停の白峰会館で入浴(550円)駐車場に近くて便利。南アルプス芦安山岳館を見学する。丁度「南アルプスの日本百名山」特別展が開催されていた。これらについては私の「ヤフーブログ」に掲載しましたのでそちらを見て下さい。あまり疲れずに帰宅できたが、今日まで足のフクロハギと腿の筋肉が張っている。この現象は昨年からだ。膝をかばっての現象と思う。アルプスは体力的に65歳までと決めていたがまだ大丈夫そうなので2年延期します。